

2015/9/15

柏の景気情報（平成27年8月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成27年8月分）

○ 調査期間 : 平成27年8月20日 ~ 9月7日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	82	52.6%
建設	44	20	45.5%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成27年8月の調査結果のポイント】

◀業況DIはやや悪化。コスト増や人手不足により先行きも依然厳しい見通し▶

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.1(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が3.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲32.1(同▲42.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同△14.2)、製造業▲11.1(同±0.0)であり、サービス業では20.4ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲35.0(同▲25.0)である。

【建設業】からは、「猛暑のため、作業効率に影響はあったが、売上・採算は変わらず。省エネ関連の営業に努力する」(電気工事業)、「8月は休みも多いので、畳工事の受注は少ないが、畳縁(ヘリ)小物、バッグは売上増」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「印刷業界は決して良くない。相変わらず体力勝負となってくる」(印刷業)、「発注量増大により、加工協力会社の工数がオーバー状態。部品納期遅延が多発しており、スケジュール管理に苦慮している」(その他の機械・同部品製造業)、「先行きは不変としているが、コスト高を受けた値上げを予定しており、今後の売上高は不透明」(酒類製造業)、「社員1名入社。仕事量は増加していないが、社内の効率化、不良率の低減、環境整理の徹底を通して利益率を少しずつ向上させ、黒字体質に努力する」(その他の金属製品製造業)、「生産面では例年、季節的に減少となっているが、9月以降の先行き見通しが立っていない」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「我々小売業より、メーカーの方がかなりきつい感が漂っている。異常なくらい新規開拓の営業が回って来る。パイがだんだん小さくなって売上確保にやっきになっている」(婦人・子供服小売業)、「6～8月は、昨年より悪化。個人消費が減少している。柏では海外からの旅行者も増えてはいるが、家電量販店が目的のように見える」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「時間給社員の確保が日に日に難しくなっている。募集時給を上げるには、今までの社員時給を上げなければならないので、慎重な状態だ。より一層の粗利益アップを要求される」(各種食料品小売業)、「お盆までは好調ですが、お盆を過ぎると売上減少」(菓子・パン小売業)、「暦では夏から秋に変わろうとしています。今年は生産地の気候が低温による生育不良や降雨が多かったところ、干ばつに見舞われたところ、猛暑続きなど産地ではまちまちの動きをしています」(食料・飲料卸売業)、「8月は猛暑に特化した一部のみ売れたようだが、日々の生活用品(食品、日用品等)は売れ行きが悪く、全体の一ヶ月としての業況は悪化している」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「個人需要は国内では、秋の北海道や沖縄、九州などの長距離方面と関東近郊、京都の紅葉が人気。相変わらず大阪のテーマパーク関連商品、北陸が大人気。また、海外では、上期円安で買い控えていた海外旅行がその反動で申込みが増えている。特にISの影響で落ち込んでいたヨーロッパが復調傾向。法人需要は、好況感がひと段落したのか、業況見極めを理由に旅行を延期する企業が微増」(旅行業)、「春の値上げに続き、9月から秋にかけて全ての商品の値上げ(申請)あり。来春物の商品の確保(在庫)のための倉庫(保管)と資金繰りが大変」(その他の飲食料品小売業)、「ランニングコストが増加傾向にありますので、経費削減として照明器具のLED化と各種保険の見直しを検討しています」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎猛暑の影響

各業種より、「8月は前半が異常な高気温、後半は雨による天候不順のため、作業が進まず売上激減となった」(その他の職別工事業)、「衣料品は前半猛暑の影響で盛夏アイテムの動きが良く好調に推移。但し、中旬以降、猛暑が落ち着くも秋物の動きが鈍く、中旬から後半にかけては苦戦」(百貨店)などのコメントが寄せられた。

◎仕入単価上昇

各業種より、「仕入原価は少しずつ上昇している。量目が減って実質値上げしている商品が多くなっている」(その他の各種商品小売業)、「金融緩和の影響か、仕入価額(不動産)が上昇しています。競争が激しい為に、仕入れに苦労しています。全体的に販売も減少しています」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

「倉庫内従業員(社員、パート、アルバイト)、配送要員(社員)の採用が困難になっている」(他に分類されない小売業)、「景気動向が不安定。技術者定着が悪化。外注を頼る傾向が強くなっている」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲12.0	▲9.0	△15.7	▲42.3	±0.0
4月	▲16.8	▲13.0	▲5.5	▲44.4	△13.3
5月	▲24.3	▲26.0	▲11.1	▲50.0	±0.0
6月	▲24.7	▲26.0	▲11.1	▲39.2	▲12.5
7月	▲19.7	▲25.0	±0.0	▲42.8	△14.2
8月	▲23.1	▲35.0	▲11.1	▲32.1	▲6.2
見通し	▲19.5	▲20.0	▲11.1	▲32.1	▲6.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.1(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が3.4ポイント拡大した。

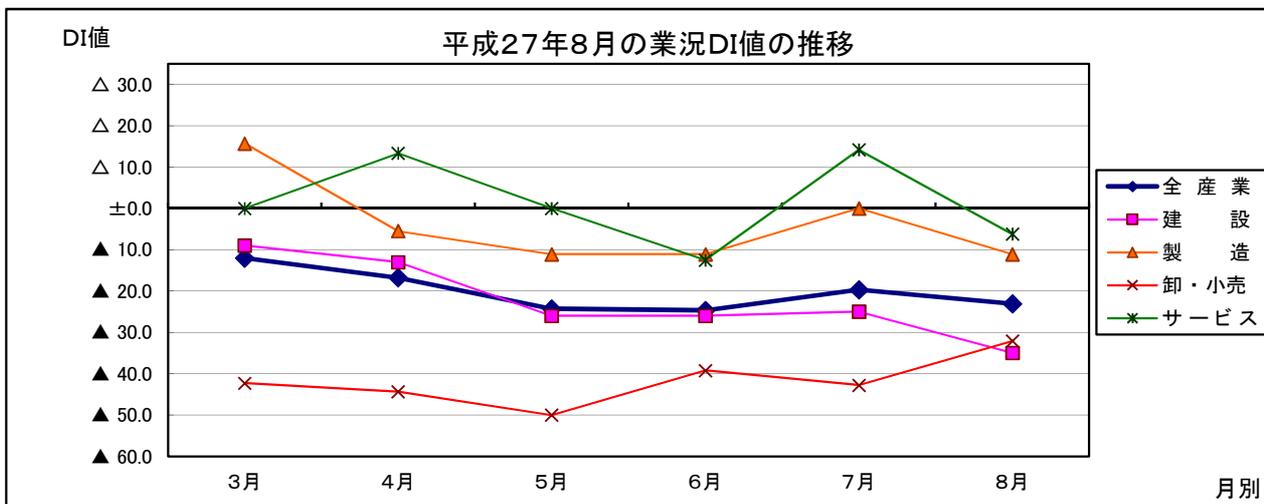
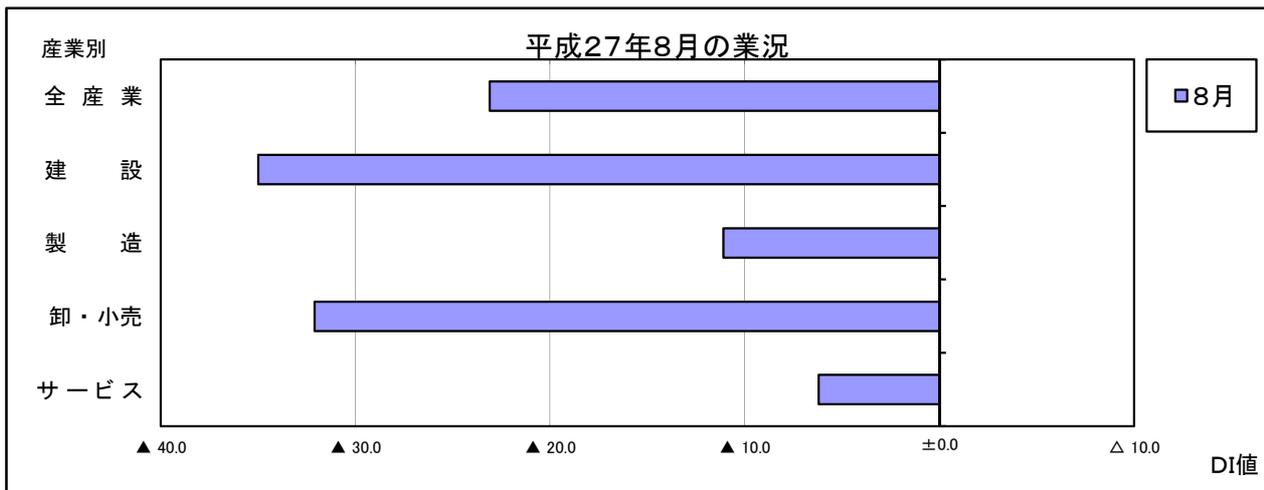
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲32.1(同▲42.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同△14.2)、製造業▲11.1(同±0.0)であり、サービス業では20.4ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲35.0(同▲25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.5(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が2.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲32.1(同▲35.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.2(同△7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲12.5)、製造業▲11.1(同▲6.6)である。

平成27年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲12.0	▲16.8	▲24.3	▲24.7	▲19.7	▲23.1	▲19.5(▲16.0)
建設	▲9.0	▲13.0	▲26.0	▲26.0	▲25.0	▲35.0	▲20.0(▲12.5)
製造	△15.7	▲5.5	▲11.1	▲11.1	±0.0	▲11.1	▲11.1(▲6.6)
卸・小売	▲42.3	▲44.4	▲50.0	▲39.2	▲42.8	▲32.1	▲32.1(▲35.7)
サービス	±0.0	△13.3	±0.0	▲12.5	△14.2	▲6.2	▲6.2(△7.1)



【平成27年8月の売上についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.0(同▲4.9)であり、マイナス幅が12.1ポイント拡大した。

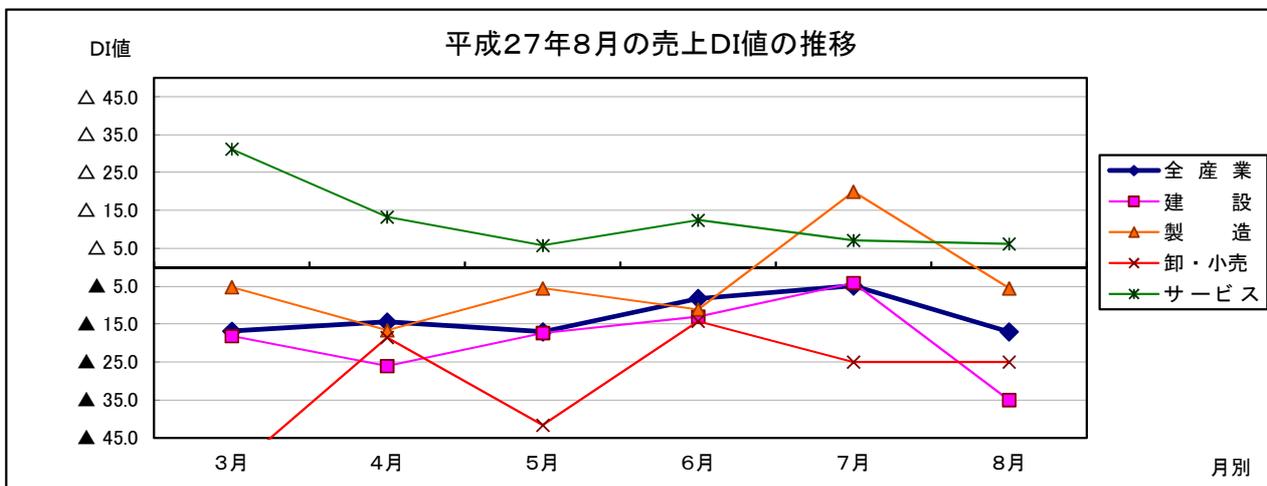
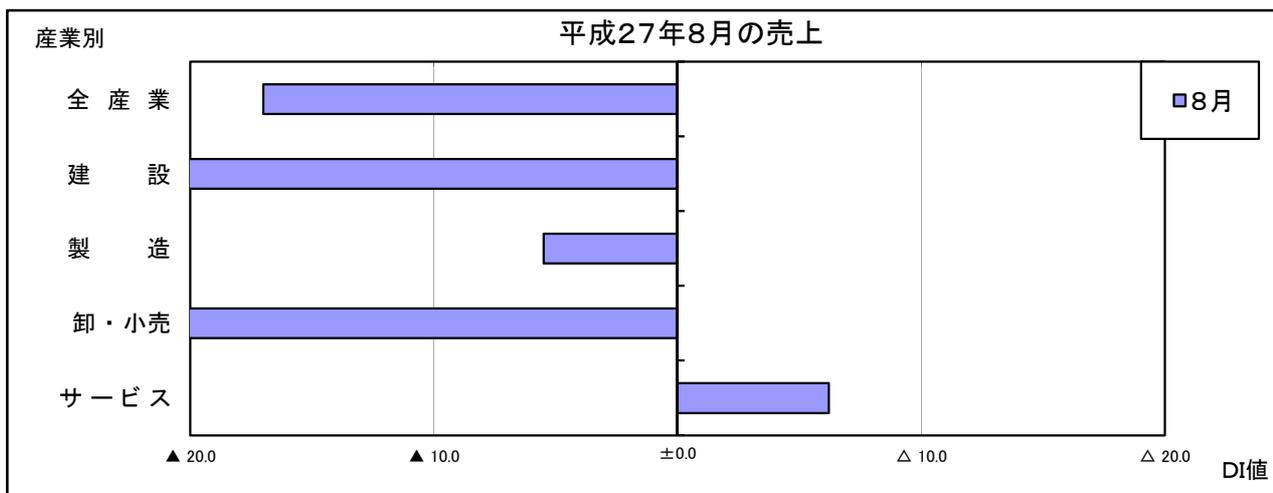
業種別では、変わらない業種は、卸小売業▲25.0(同▲25.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△6.2(同△7.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲5.5(同△20.0)であり、25.5ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲35.0(同▲4.1)であり、マイナス幅が30.9ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.1(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が2.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△16.6(同▲26.6)であり、43.2ポイントと大幅に改善する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△14.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲10.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲39.2(同▲21.4)である。

平成27年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲16.8	▲14.4	▲17.0	▲8.2	▲4.9	▲17.0	▲12.1(▲9.8)
建設	▲18.1	▲26.0	▲17.3	▲13.0	▲4.1	▲35.0	▲10.0(±0.0)
製造	▲5.2	▲16.6	▲5.5	▲11.1	△20.0	▲5.5	△16.6(▲26.6)
卸・小売	▲53.8	▲18.5	▲41.6	▲14.2	▲25.0	▲25.0	▲39.2(▲21.4)
サービス	△31.2	△13.3	△5.8	△12.5	△7.1	△6.2	±0.0(△14.2)



【平成27年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.1(前月水準▲29.6)となり、マイナス幅が6.5ポイント縮小した。

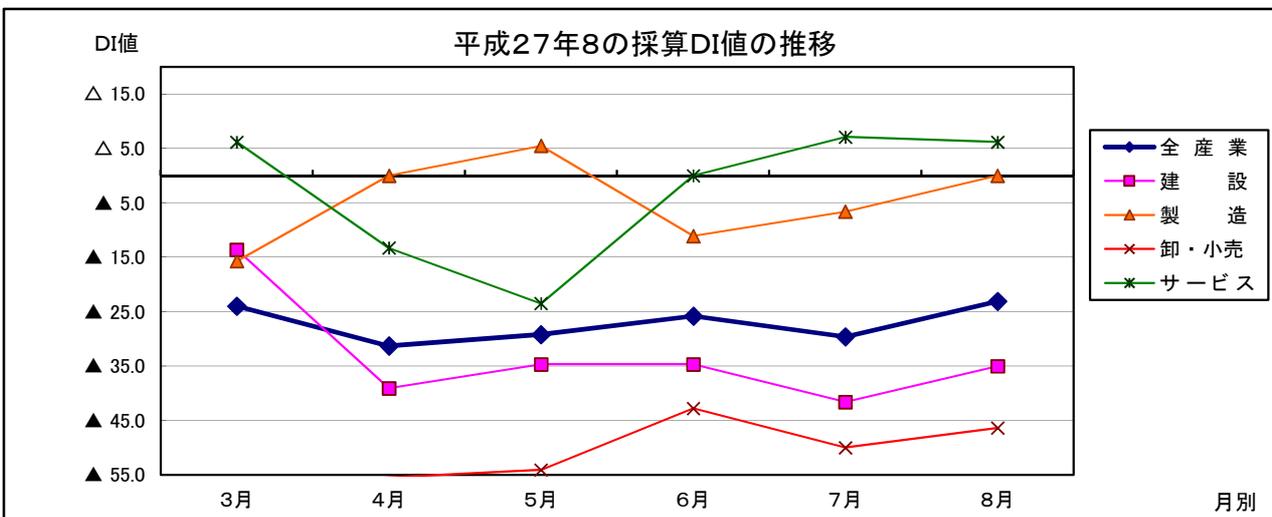
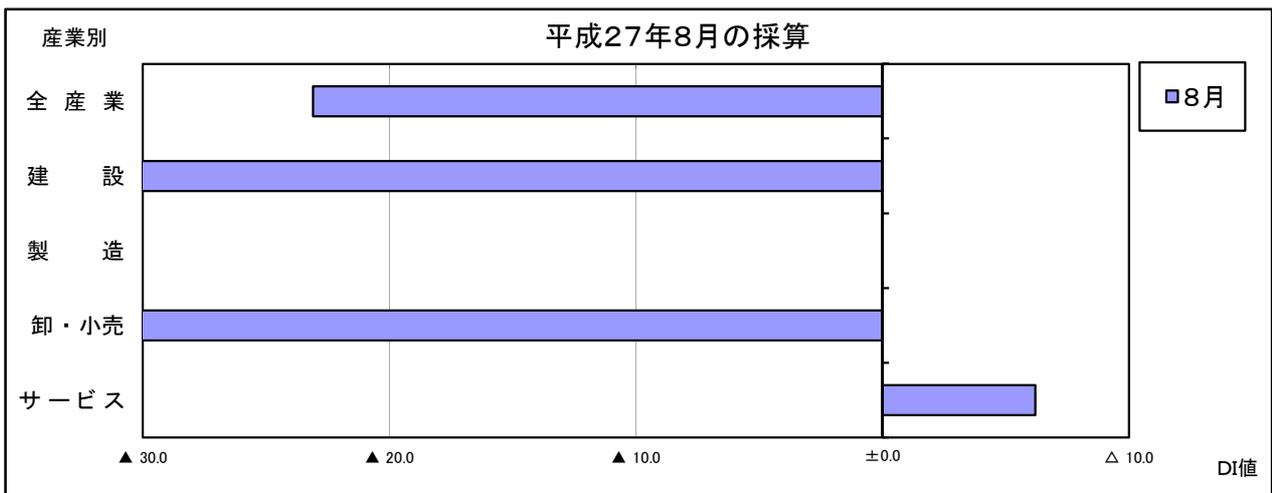
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲35.0(同▲41.6)、卸小売業▲46.4(同▲50.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△6.2(同△7.1)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.3(前月水準▲20.9)であり、マイナス幅が3.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲20.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.2(同△21.4)であり、27.6ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲42.8(同▲35.7)、建設業▲30.0(同▲29.1)である。

平成27年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲24.0	▲31.3	▲29.2	▲25.8	▲29.6	▲23.1	▲24.3(▲20.9)
建設	▲13.6	▲39.1	▲34.7	▲34.7	▲41.6	▲35.0	▲30.0(▲29.1)
製造	▲15.7	±0.0	△5.5	▲11.1	▲6.6	±0.0	▲5.5(▲20.0)
卸・小売	▲57.6	▲55.5	▲54.1	▲42.8	▲50.0	▲46.4	▲42.8(▲35.7)
サービス	△6.2	▲13.3	▲23.5	±0.0	△7.1	△6.2	▲6.2(△21.4)



【平成27年8月の仕入単価についての状況】

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.9(前月水準▲38.2)となり、マイナス幅が5.3ポイント縮小した。

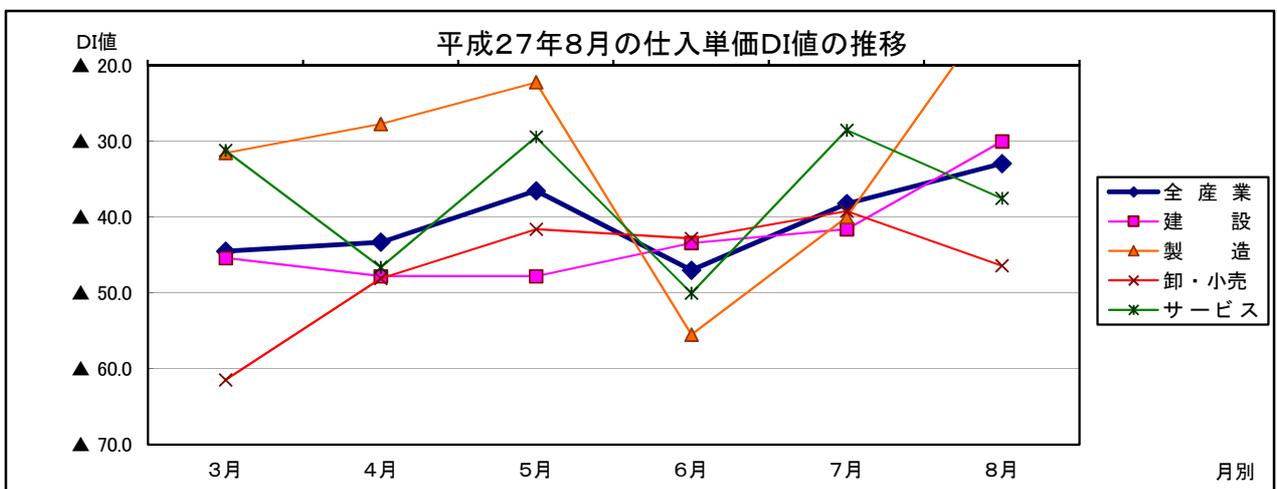
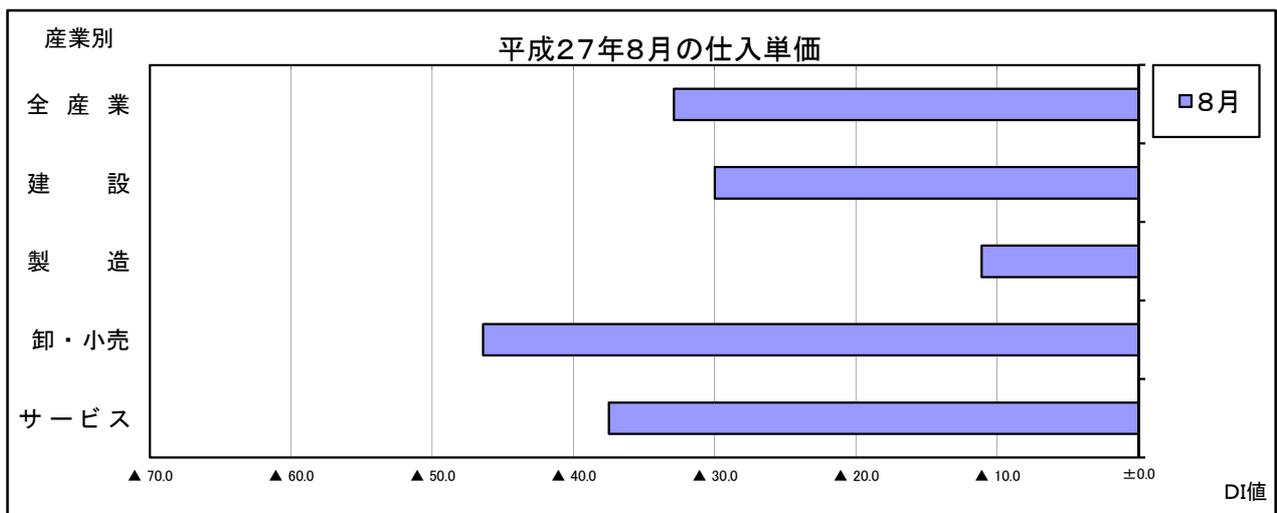
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.1(同▲40.0)、建設業▲30.0(同▲41.6)であり、特に製造業では、マイナス幅が28.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲37.5(同▲28.5)、卸小売業▲46.4(同▲39.2)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.0(前月水準▲25.9)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.7(同▲42.8)、製造業▲22.2(同▲26.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲25.0(同±0.0)であり、25.0ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲25.0(同▲20.8)である。

平成27年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲44.5	▲43.3	▲36.5	▲47.0	▲38.2	▲32.9	▲28.0(▲25.9)
建設	▲45.4	▲47.8	▲47.8	▲43.4	▲41.6	▲30.0	▲25.0(▲20.8)
製造	▲31.5	▲27.7	▲22.2	▲55.5	▲40.0	▲11.1	▲22.2(▲26.6)
卸・小売	▲61.5	▲48.1	▲41.6	▲42.8	▲39.2	▲46.4	▲35.7(▲42.8)
サービス	▲31.2	▲46.6	▲29.4	▲50.0	▲28.5	▲37.5	▲25.0(±0.0)



【平成27年8月の従業員についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△10.9(前月水準△12.3)となり、プラス幅が1.4ポイント縮小した。

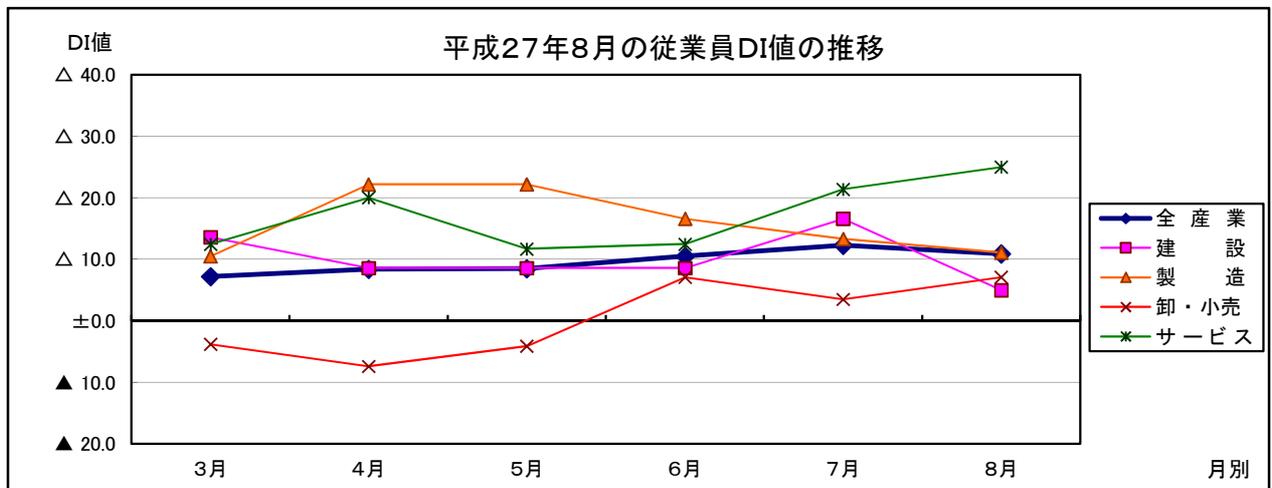
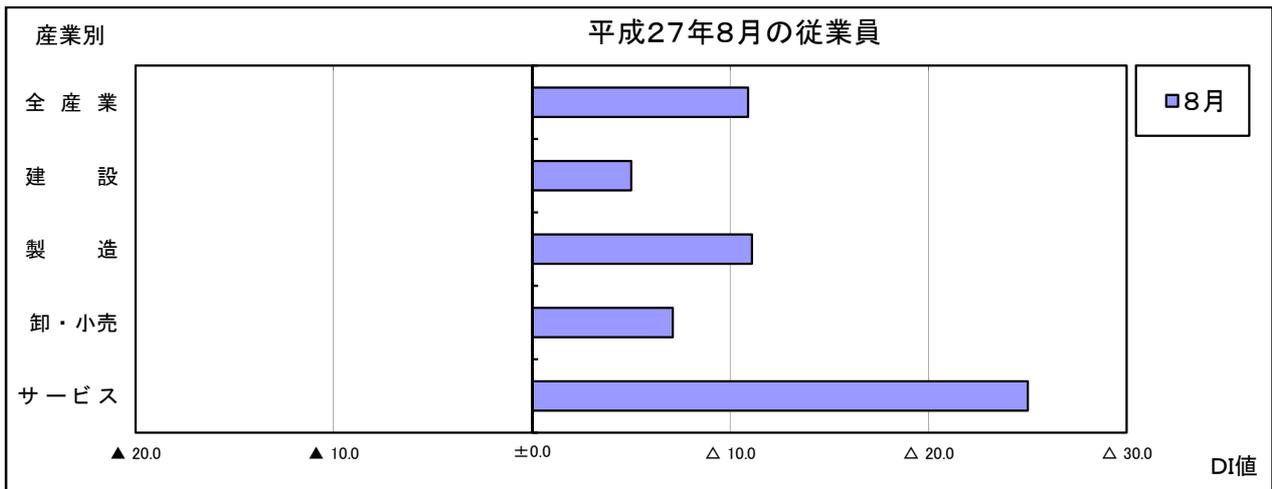
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△25.0(同△21.4)、卸小売業△7.1(同△3.5)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△5.0(同△16.6)、製造業△11.1(同△13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△14.6(前月水準△12.3)であり、プラス幅が2.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△20.0(同△8.3)、卸小売業△14.2(同△7.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△18.7(同△35.7)、製造業△5.5(同△6.6)である。

平成27年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	△7.2	△8.4	△8.5	△10.5	△12.3	△10.9	△14.6(△12.3)
建設	△13.6	△8.6	△8.6	△8.6	△16.6	△5.0	△20.0(△8.3)
製造	△10.5	△22.2	△22.2	△16.6	△13.3	△11.1	△5.5(△6.6)
卸・小売	▲3.8	▲7.4	▲4.1	△7.1	△3.5	△7.1	△14.2(△7.1)
サービス	△12.5	△20.0	△11.7	△12.5	△21.4	△25.0	△18.7(△35.7)



【平成27年8月の資金繰りについての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.7(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が0.1ポイント縮小した。

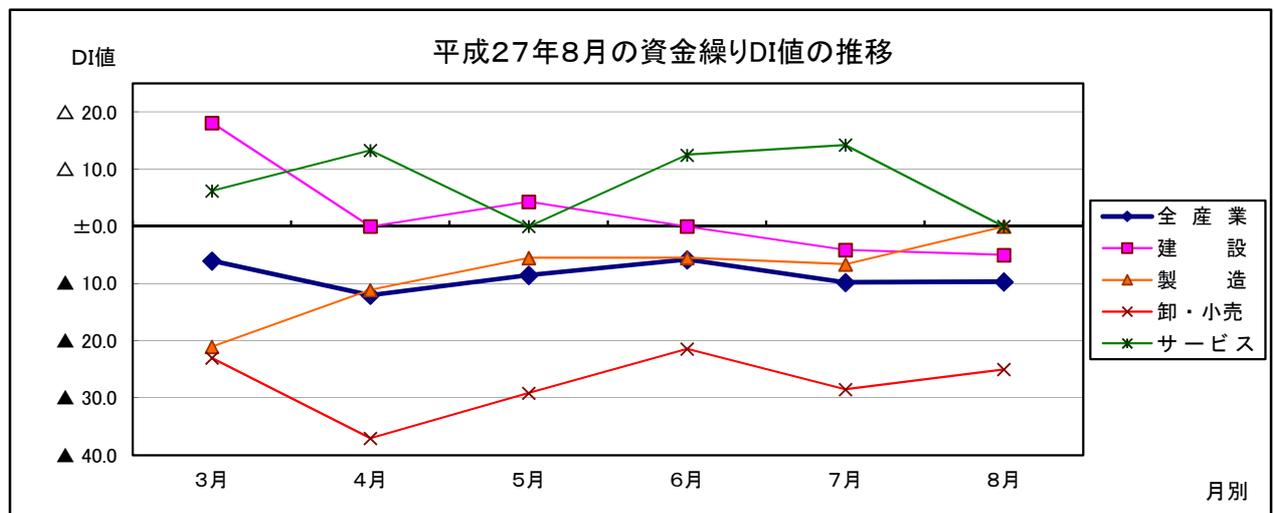
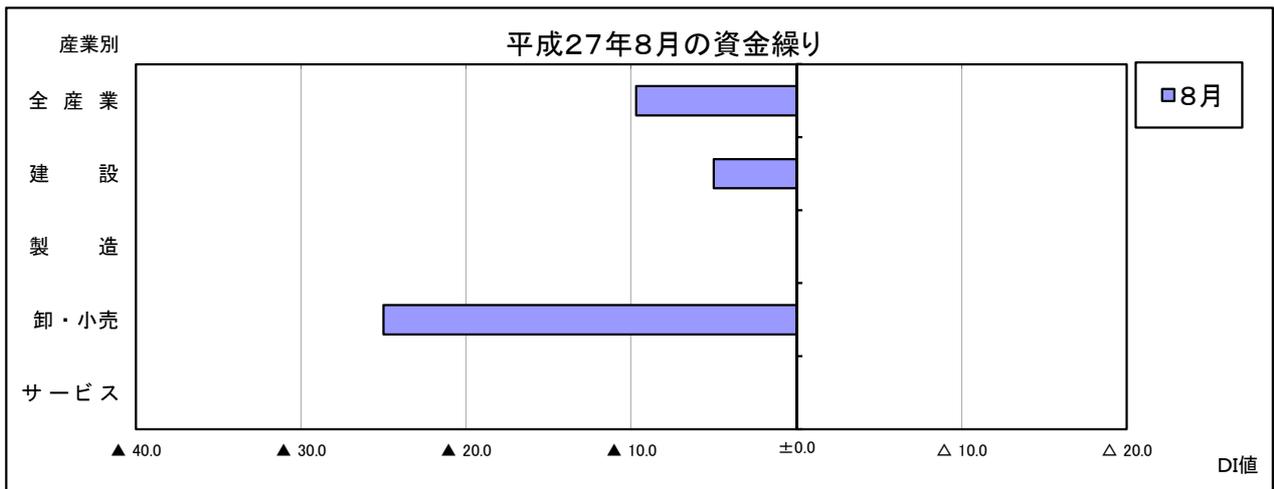
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲25.0(同▲28.5)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲5.0(同▲4.1)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.0(前月水準▲4.9)となり、マイナス幅が1.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲6.6)である。変わらない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△6.2(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲17.8(同▲14.2)である。

平成27年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲6.0	▲12.0	▲8.5	▲5.8	▲9.8	▲9.7	▲6.0(▲4.9)
建設	△18.1	±0.0	△4.3	±0.0	▲4.1	▲5.0	±0.0(±0.0)
製造	▲21.0	▲11.1	▲5.5	▲5.5	▲6.6	±0.0	▲5.5(▲6.6)
卸・小売	▲23.0	▲37.0	▲29.1	▲21.4	▲28.5	▲25.0	▲17.8(▲14.2)
サービス	△6.2	△13.3	±0.0	△12.5	△14.2	±0.0	△6.2(△7.1)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.0	▲ 12.1	▲ 23.1	▲ 24.3	▲ 32.9	▲ 28.0	△ 10.9	△ 14.6
建設	▲ 35.0	▲ 10.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 25.0	△ 5.0	△ 20.0
製造	▲ 5.5	△ 16.6	±0.0	▲ 5.5	▲ 11.1	▲ 22.2	△ 11.1	△ 5.5
卸・小売	▲ 25.0	▲ 39.2	▲ 46.4	▲ 42.8	▲ 46.4	▲ 35.7	△ 7.1	△ 14.2
サービス	△ 6.2	±0.0	△ 6.2	▲ 6.2	▲ 37.5	▲ 25.0	△ 25.0	△ 18.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.1	▲ 19.5	▲ 9.7	▲ 6.0
建設	▲ 35.0	▲ 20.0	▲ 5.0	±0.0
製造	▲ 11.1	▲ 11.1	±0.0	▲ 5.5
卸・小売	▲ 32.1	▲ 32.1	▲ 25.0	▲ 17.8
サービス	▲ 6.2	▲ 6.2	±0.0	△ 6.2

【平成27年8月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	猛暑のため、作業効率に影響はあったが、売上・採算は変わらず。省エネ関連の営業に努力する。	猛暑の影響 省エネ関連の営業強化	電気工事業
	8月は休みも多いので、畳工事の受注は少ないが、畳縁(ヘリ)小物、パツグは売上増。畳縁(ヘリ)のメートル売りも増加。	畳工事受注減 畳小物売上増	内装工事業
	8月は前半が異常な高気温、後半は雨による天候不順のため、作業が進まず売上激減となった。行程が9月にずれ込み、高齢化による職人不足も重なり、年末に向かって忙しくなりそうだ。10%消費税を考えてか、リフォーム工事の案件が増えているが、全体的に物件が少ないようで、受注競争が激化し、施工単価が下がってきている。	猛暑の影響 天候不順 売上減 人手不足(職人不足) 競争激化	その他の職別工事業
製造業	印刷業界は決して良くない。相変わらず体力勝負となってくる。	業界不振	印刷業
	発注量増大により、加工協力会社の工数がオーバー状態。部品納期遅延が多発しており、スケジュール管理に苦慮している。	発注量増加 工数オーバー 部品納期遅延発生	その他の機械・同部品製造業
	先行きは不変としているが、コスト高を受けた値上げを予定しており、今後の売上高は不透明。	コスト高 商品値上げ 先行き不透明	酒類製造業
	社員1名入社。仕事量は増加していないが、社内の効率化、不良率の低減、環境整理の徹底を通して利益率を少しずつ向上させ、黒字体質に努力する。	社内効率化 環境整理 利益率向上 黒字体質	その他の金属製品製造業
	生産面では例年、季節的に減少となっているが、9月以降の先行き見通しが立っていない。	季節的な生産量減少 先行き不透明	一般産業用機械・装置製造業
	変わりつつある企業の在り方。近目・遠目で見ていかないと生き残るのは難である。		印刷業
	我々小売業より、メーカーの方がかなりきつい感が漂っている。異常なくらい新規開拓の営業が回ってくる。パイがだんだん小さくなって売上確保にやっきになっている。プレミアム商品券の売上増も除くと特に減ってきている。	メーカーの不振 プレミアム商品券	婦人・子供服小売業
	6~8月は、昨年より悪化。個人消費が減少している。柏では海外からの旅行者も増えてはいるが、家電量販店が目的のように見える。不況が続いたせいか、従業員が高齢化しており、今後、引退の兆しもあり、対応に追われる。	個人消費低迷 海外旅行者(家電目的)増加 従業員の高齢化	時計・眼鏡・光学機械小売業
	時間給社員の確保が日に日に難しくなってきている。募集時給を上げるには、今までの社員時給を上げなければならないので、慎重な状態だ。より一層の粗利益アップを要求される。	人手不足(時給社員) 時給の値上げ 粗利益アップの必要性	各種食品小売業
	お盆までは好調ですが、お盆を過ぎると売上減少。		菓子・パン小売業

【平成27年8月の業種別業界内トピックス】

卸小売	<p>暦では夏から秋に変わろうとしています。今年が生産地の気候が低温による生育不良や降雨が多かったところ、干ばつに見舞われたところ、猛暑続きなど産地ではまちまちの動きをしています。これからの青果物は、秋の商材を意識した取り引きに変化を求め、情報を取り寄せています。このような中、前年より入荷は減少し、一部品目では果実、野菜ともに単価高の傾向で推移しています。また、今後の地域の活性化策として、秋祭りなどのイベント等が増えてくることも予想されますので、産地、消費動向を確認しながら、安定供給をして参ります。</p>	<p>青果物の入荷減少 一部品目高値推移 イベントに向けた安定供給</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
	<p>仕入原価は少しずつ上昇している。量目が減って実質値上げしている商品が多くなっている。</p>	<p>仕入単価上昇</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>8月は猛暑に特化した一部のみ売れたようだが、日々の生活用品(食品、日用品等)は売れ行きが悪く、全体の一ヶ月としての業況は悪化している。</p>	<p>猛暑の影響 売上減 業況悪化</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>倉庫内従業員(社員、パート、アルバイト)、配送要員(社員)の採用が困難になっている。</p>	<p>人手不足(採用難)</p>	<p>他に分類されない小売業</p>
	<p>衣料品は前半猛暑の影響で盛夏アイテムの動きが良く好調に推移。但し、中旬以降、猛暑が落ち着くも秋物の動きが鈍く、中旬から後半にかけては苦戦。時計などの高額品は前月に引き続き好調を維持。大きな天候影響も無く、全体としてのトレンドは上昇傾向にある。</p>	<p>猛暑の影響 夏物好調 秋物不調 高額品好調</p>	<p>百貨店</p>
サービス	<p>前年同月比較では、15%増となりそうです。理由はわからないのですが、商品の原価率を上げて、高品質にはしています。</p>	<p>売上増</p>	<p>酒場・ビヤホール</p>
	<p>春の値上げに続き、9月から秋にかけて全ての商品の値上げ(申請)あり。来春物の商品の確保(在庫)のための倉庫(保管)と資金繰りが大変。在庫とあわせて販売価格の改定の時期が難しい。流山市に隣接している地域なので、プレミアムチケット使用の売上が無い。</p>	<p>商品値上げ申請 資金繰り 販売価格改定 プレミアム商品券</p>	<p>その他の飲食料品小売業</p>
	<p>個人需要は国内では、秋の北海道や沖縄、九州などの長距離方面と関東近郊、京都の紅葉が人気。相変わらず大阪のテーマパーク関連商品、北陸が大人気。また、海外では、上期円安で買い控えていた海外旅行がその反動で申込みが増えている。特にISの影響で落ち込んでいたヨーロッパが復調傾向。法人需要は、好況感がひと段落したのか、業況見極めを理由に旅行を延期する企業が微増。</p>	<p>北海道、沖縄、九州旅行人気 関東近郊、京都旅行人気 北陸旅行大人気 大阪テーマパーク関連商品人気 ヨーロッパ旅行復調傾向</p>	<p>旅行業</p>
	<p>金融緩和の影響か、仕入価額(不動産)が上昇しています。競争が激しい為に、仕入れに苦労しています。全体的に販売も減少しています。気候も良くなってきたので、秋の商戦に向けて売上増を期待しています。</p>	<p>金融緩和の影響 仕入単価上昇 競争激化 売上減 秋の商戦</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>ランニングコストが増加傾向にありますので、経費削減として照明器具のLED化と各種保険の見直しを検討しています。また、今後の新規融資に関しては、従来より長く償還期間を設け、収支のバランスを保つように心掛けています。</p>	<p>コスト高 経費削減 照明のLED化 収支バランス</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>景気動向が不安定。技術者定着が悪化。外注を頼る傾向が強くなっている。</p>	<p>人手不足(技術者の定着難) 不安定な景気動向</p>	<p>ソフトウェア業</p>

◎猛暑の影響

8月は前半が異常な高気温、後半は雨による天候不順のため、作業が進まず売上激減となった。

その他の職別工事業

衣料品は前半猛暑の影響で盛夏アイテムの動きが良く好調に推移。但し、中旬以降、猛暑が落ち着くも秋物の動きが鈍く、中旬から後半にかけては苦戦。

百貨店

◎仕入単価上昇

仕入原価は少しずつ上昇している。量目が減って実質値上げしている商品が多くなっている。

その他の各種商品小売業

金融緩和の影響か、仕入価額(不動産)が上昇しています。競争が激しい為に、仕入れに苦労しています。全体的に販売も減少しています。

不動産管理業

◎人手不足

倉庫内従業員(社員、パート、アルバイト)、配送要員(社員)の採用が困難になっている。

他に分類されない小売業

景気動向が不安定。技術者定着が悪化。外注を頼る傾向が強くなっている。

ソフトウェア業

平成27年8月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.1に対し、「CCI-LOBO」が▲14.9で柏の方がマイナス幅が8.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.0に対し、「CCI-LOBO」が▲7.8で柏の方がマイナス幅が9.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。柏の景気の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.1に対し、「CCI-LOBO」が▲16.0で柏の方がマイナス幅が7.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、それぞれ10ポイント以上良い。柏の景気の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」の方が▲32.9に対し、「CCI-LOBO」が▲41.0で柏の方がマイナス幅が8.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△10.9に対し、「CCI-LOBO」が△14.1で柏の方がプラス幅が3.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.7に対し、「CCI-LOBO」が▲11.4で柏の方がマイナス幅が1.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、製造業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

平成27年8月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.1	 ▲ 35.0	 ▲ 11.1	 ▲ 32.1	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 14.9	 ▲ 19.1	 ▲ 13.0	 ▲ 23.0	 ▲ 6.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.0	 ▲ 35.0	 ▲ 5.5	 ▲ 25.0	 △ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 7.8	 ▲ 22.7	 ▲ 10.6	 ▲ 9.7	 △ 3.1

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.1	 ▲ 35.0	 ±0.0	 ▲ 46.4	 △ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 16.0	 ▲ 19.8	 ▲ 15.2	 ▲ 21.3	 ▲ 8.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 32.9	 ▲ 30.0	 ▲ 11.1	 ▲ 46.4	 ▲ 37.5
CCI-LOBO	 ▲ 41.0	 ▲ 44.5	 ▲ 36.1	 ▲ 43.3	 ▲ 36.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 10.9	 △ 5.0	 △ 11.1	 △ 7.1	 △ 25.0
CCI-LOBO	 △ 14.1	 △ 13.7	 △ 8.5	 △ 16.7	 △ 20.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 9.7	 ▲ 5.0	 ±0.0	 ▲ 25.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.4	 ▲ 8.3	 ▲ 12.2	 ▲ 17.4	 ▲ 9.7

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (8月速報)

調査期間：平成27年8月17日～21日

調査対象：全国の422商工会議所が2976企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、3カ月ぶりの改善、先行きは回復見込むも力強さを欠く

8月の全産業合計の業況DIは、▲14.9と、前月から+5.1ポイントの改善。好調な観光関連が全体を牽引する中、プレミアム付商品券などの政策効果や猛暑の影響による受注・売上増がみられたほか、住宅・設備投資も持ち直しに向けた動きが続く。ただし、「悪化」から「不変」への変化もDIの押し上げ要因となったことに留意が必要。価格転嫁の遅れや人手不足、人件費の上昇が足かせとなる状況は変わらず、地域や業種によって回復のペースにばらつきが残るなど、一進一退の動きとなっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲13.5（今月比+1.4ポイント）と改善を見込むも、「悪化」から「不変」への変化が主因。プレミアム付商品券などによる消費喚起や、インバウンドをはじめとする観光関連の需要増、住宅・設備投資の回復などへの期待感が伺える。他方で、コスト増加分の転嫁遅れや人手不足の状況が続く中、食料品などの値上げに

伴う消費者マインドの低下や、中国経済の減速による影響を懸念する声が聞かれるなど、先行きに確信を持ってない企業も多く、回復に力強さを欠く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「利幅は小さいものの、小規模マンションなど住宅関連の受注が増えている」（一般工事業）、「建築コストの増大に伴い、計画の見直しや延期を決める顧客が開始しており、先行きの見通しが立てづらい」（一般工事業）、「家電量販店などがリフォーム事業の営業を強化している。自社の業績は今のところ堅調だが、差別化を図るため対応策を検討中」（建築工事業）

【製造業】「原材料価格上昇分の転嫁が困難。他方で、販促活動や生産ライン見直しの効果が出始めており、今後の収益改善を期待したい」（食料品製造・販売業）、「自社製品の高精度化・高付加価値化を図るため設備投資を行いたい、費用が大きく、資金繰りが心配」（金属加工業）、「エアコンをはじめ家

電関連の受注が持ち直しているほか、スマートフォン向けは新機種用に動きが出始めている」（電気機械部品製造業）

【卸売業】「好天が続いたことから、帽子など夏物商品の受注が好調。また、秋物商品の引き合いも増えつつある」（服飾品卸売業）、「過剰在庫を避けるため発注を小口化させる取引先が増えており、運送費などのコストが増大。自社の収益を圧迫している」（日用品卸売業）、「住宅向けを中心に売上が伸びており、物流倉庫の移転・新設を計画している」（建築資材卸売業）

【小売業】「プレミアム付商品券の効果により、ギフトや化粧品、婦人服、時計が好調。また、お盆は帰省客の来店も多く、売上が押し上げた」（百貨店）、「食料品などの値上げが相次ぐ中、必要なものしか買わない消費者が増えており、売上が伸び悩んでいる」（総合スーパー）、「猛暑日が続いたため、冷菓など食料・飲料品の売れ行きが良かった」（商店街）

【サービス業】「軽油価格の下落に伴い、採算が好転しつつある。他方で、荷主から運送費の値下げ要求が予想され

るため、楽観できない」（運送業）、「外国人観光客の利用が増えている。さらなる集客を図るため、外国人向けのメニュー開発やサービス強化を図る予定」（飲食店）、「お盆を中心に8月は満室の状況が続いた。また、9月にある連休の予約も埋まり、業績は好調に推移している」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲24.7	▲6.8	▲15.6	▲34.2	▲49.7	▲17.7
4月	▲15.3	▲10.1	▲15.6	▲20.5	▲18.1	▲13.2
5月	▲13.5	▲13.4	▲15.1	▲17.3	▲13.6	▲10.0
6月	▲15.3	▲15.1	▲12.6	▲20.6	▲19.8	▲11.6
7月	▲20.0	▲23.1	▲17.9	▲23.7	▲24.4	▲13.9
8月	▲14.9	▲19.1	▲13.0	▲15.5	▲23.0	▲6.5
見通し	▲13.5	▲8.7	▲9.3	▲16.0	▲23.0	▲6.5